

令和7年度 第3回川崎市社会教育委員会会議多摩市民館専門部会摘録

日 時 令和7年12月12日（金）午後2時～4時
場 所 多摩市民館4階 第5会議室
出席委員 高梨宏子部会長、栃木達也委員、伊藤千津子委員、三品勉委員、澤典子委員
事務局 坂尾康章館長、篠原和則課長補佐、星野弘明担当係長
傍聴者 3名

1 開会（星野係長）

2 部会長あいさつ

3 館長あいさつ

4 多摩市民館指定管理者「市民・まんなか」館長予定者あいさつ

5 令和7年度第2回会議録について

資料2に基づき星野係長から説明し承認された。特に質疑はなし。

6 議題

(1) 多摩市民館における各種事業について

ア 施設の管理運営について

資料3に基づき星野係長から説明

(伊藤委員)

これまで予約取り消しは3日前まで可能だったと思う。今後、事前に利用料金の支払いを済ませた後にキャンセルした場合、3日前までであれば返金されるということか。

(星野係長)

キャンセルする場合に利用料金がかかる、かからないの取り扱いはこれまでと同じである。利用料金を事前にお支払いいただいた場合、キャンセル料がかからない期間の中止であれば返金させていただくこととなる。

(伊藤委員)

付帯設備について、会館によってはCDラジカセを借りる際に別途料金がかかることもあるが、今後どうなるのか。

(星野担当係長)

これまで無料で貸し出していたものは引き続き無料、有料で貸し出していたものは今後も有料での貸出しとなる。

イ 社会教育振興事業について

資料4に基づき篠原課長補佐から説明

(2) 調査・審議事項について

篠原課長補佐から、調査審議事項である「市民に行き届く広報」に関して、前回までの意見を踏まえ事務局で考察した内容（資料5「(3) 社会教育施設における広報についての考察（非営利組織の経営論からの視点）」）について説明。

(三品委員)

前回は話したが、マーケティングの手法を用いることは良いことだと思う。4P分類を活用することで何のためにこれをするのか、ということがはっきりすると思う。資料に追加された、社会教育の質的評価に引き続き目を向けていく観点も重要なことだと思う。

(澤委員)

今後市民館が向かっていく先と指定管理者が向かっていく先は揃えていくことになるのか。これまで市民館が向かっていったところが、民間の指定管理者に変わることによって考え方が変わるということもあるということなのか。

(篠原課長補佐)

大元の基本的な考え方は変わらない。市が策定した「今後の市民館・図書館のあり方」で掲げた目指すべき方向性は直営であろうと指定管理であろうと変わらない。それを実現するにあたっての手法という点において、指定管理者の方がより効果的なアイデアや運営の柔軟性を発揮できると考えている。

(澤委員)

直営でやってきたときよりも、目指すところに向けてたどる道が色々増えるということか。

(篠原課長補佐)

直営でやりきれなかったところなどが選択肢として増える可能性はあると思う。今後、指定管理者が4月からの事業計画を詰めていくが、その際に市としても意見交換をしながら進めていくことになる。

(澤委員)

色々な取組のアイデアにより、もっと地域の隅々まで根付く形での広がりができるとうれしい。

(篠原課長補佐)

前期の委員から、遠い地域に住んでいる人にとって市民館は縁遠い存在だというお話もあった。市民館だよりを区内全域に回覧しているが、そのような御意見もあったので、地域の隅々まで根付いていくということは今後の課題と考えている。

(澤委員)

指定管理者はメサグランデでの活動など地域での活動もされているので、市民館だけでなくそれぞれの地域の中で、幅広いけれど細やかな広報ができると良いのではないかと。市民館の中だけでなく、市民館から地域に持ち帰って、そこからまた違う地域の人へ交流が広がっていくような形になると良い。

(栃木委員)

本日、指定管理者の館長予定者の方から話を聞いて、市民館がこうなっていくのかというイメージが湧いた。区役所生涯学習支援担当がどのような役割を果たしていくのかも重要。4月まではまだ時間があるので、あまり枠にとらわれず新しいことに挑戦できるよう意見交換をしてほしい。

先程、「地域」という話も出たが、地元の町会からはあまり市民館の話は出てこない。先日各学校合同の音楽祭が市民館で開催されたが、参加した子ども達の中には市民館に初めて来た子もいた。子どもと市民館がもっと近くなるとよいと思っている。この前、多摩区の校長会で市民館の職員が来てイベントの

PR をされたが、直接話を聞くと、それぞれの学校でもやってみようかなと思うこともある。ホームページでの広報も大切だが、直接会って話をするのが一番大切だと思う。来年4月からの新たな教育プランでは「探求」という言葉を多く使っているが、探求をするときに地域とのつながりはとても重要。今後も色々な提案をしていただくことで学校としても色々なところとつながっていけると思う。

(伊藤委員)

社会は様々な面で発達しているが、人と人とのつながりが一番重要。学習サークル連絡会や学びのフェアの取組をしているが、つながりの中で人の心が動かないと発展はしない。市民館でも以前より様々な手法で広報を行っているが、以前とは異なり人があまり来なくなってしまった。自分たちも悩んでいる。指定管理者の取組も紹介いただいたが、現場は大変で簡単ではない。

(篠原課長補佐)

資料16頁「指定管理者制度導入後の取組推進のイメージ」で記載したことは概念的なことであり、これに肉付けをしていくことは大変なことと考えている。「今後の市民館・図書館のあり方」でも、学びを通して人・つながり・地域づくりを支える生涯学習の拠点を目指していくこととしているので、今期の調査審議いただいた内容をまとめる上でも、今後の取組推進のイメージの中で「つながり」という観点を追加したいと思う。

(三品委員)

先程、伊藤委員から現場は大変とのお話があったが、具体的にどのような点で大変か教えてほしい。

(伊藤委員)

広報の面で言えば、市民館だよりなど様々な広報をしているが、今の人は周りに楽しいことが沢山あるので、「行ってみようかな」と思ってもらえるところまで行かない。こちらは良いことと思って発信しても応答が得られない。

(三品委員)

何かをやりたい人がいて、その人に市民館に行ったらどうかと言っても行かない、その理由はどういうことをやるか書いてないからということか。

(伊藤委員)

そういうことではない。人は楽しいことがあると活気づく。例えばハーモニカをもっと上達したいと思えば出てくる。自分自身が生き生きとわくわくすることが無いのだと思う。

(三品委員)

広報に関する課題ということではないということか。

(伊藤委員)

広報についても以前とは違う。

(澤委員)

今は流れている情報の量は多いが自分がしたいこと、自分にとって必要な情報をひたすら探しているの
で得られる情報も偏っているのではないか。市民館で色々なことをやっていますよと情報を出しても届かない人が多くなっているのではないか。

(篠原課長補佐)

コロナ禍以前は、市民館に行けば何か生きがいを見つけられるのでは、という雰囲気があり、実際にそ

ここで多くの人の出会いがあり、人生をより良く歩いていくという流れがあり、講座にも多くの方に来ていただいたということはあると思う。連続講座などでも厭わず参加していただいた方も多かったという話も聞いたことがある。コロナ禍以降は、まだ完全に以前の講座数に戻っておらず、5回・10回など回数の多い連続講座を組んでも応募が少ない状況もある。オンラインで講座を受講できるようなことも増えている。今までであれば市民館に来なければできなかったことができるようになってきている中で、どうしたら市民館に足を向けてもらえるかが難しくなっていると感じている。そのことに対応していく考え方の一つとして、今期の調査審議事項についての資料でお示しした考察がある。それぞれの事業において、4P分類の考え方を事業全体の中で当てはめて見直していくことで、効果的な広報にもつながっていくと考えている。

(伊藤委員)

一番たどり着きたいところは人と人とのつながりによる地域の活性化である。人と人との息吹を感じられるように尽くしていきたい。

(高梨部会長)

社会の中で市民館の位置付け、人々が期待することが変わってきているということはあると思う。公民館には「集う」「学ぶ」「結ぶ」という3つのキーワードがある。学び、結ぶためには集わなければならないので、社会の変化も踏まえて集うためにはどうすればよいのかをこれまで皆で考えてきた。集った後に学びをどう充実させていくか、人と人をどう結んで多摩区の活性化につなげていくか、ということは来季以降の専門部会での検討事項になるのだと思う。指定管理者からも市民の声をどんどん聞いていきたいという話もあったので意見交換の場などもつくられるとより良い市民館が育まれていくと思う。

また、これまでも話をしてきたことだが、利用者が何人来たかということよりも、一人の人の学びの広がりや深さといったものを充実させていく、利用者数だけに縛られない質的な評価の観点について、今回資料の16頁の最後に追記していただいた。例えば、30人集まるはずだったが10人しか集まらなかった。それでも学習者の意識の変容があり、そこから新しい活動が生まれ、学びの継続性が担保されるような活動になっていったとすれば、それは十分に評価に値することなので、質的評価にも注目するような広報を念頭に置いてもらえるといいと思う。

今回、指定管理者の方に来ていただき取組についてお話しいただいたことは本当に良かった。「集う」「学ぶ」「結ぶ」ことをしていくための質的評価として、自分たちの活動・実践がどうだったのか、自分たちの学びが何だったのかを市民同士で語り合いながら振り返り評価していくことが手法としてある。NPOとして長く地域で活躍されている指定管理者なので、そうしたことも上手くやっていただけるのではという期待も感じた。

本日の意見も踏まえ、次回は調査審議事項のまとめの最終確認をしていければと思う。

7 その他

次第に記載のとおり、第4回多摩市民館専門部会の日程について説明した。

また、多摩市民館市民自主学級・市民自主企画事業企画提案会の流れについて説明した。

8 閉会